

知床世界自然遺産地域におけるヒグマと人の関わり方についての緊急声明

知床世界自然遺産地域管理計画においてヒグマは、河川でのサケ科魚類等の捕食を通じて遺産価値である海洋生態系と陸上生態系の物質循環に貢献する重要な種の一つとされています。こうした機能を踏まえ、ヒグマの生態と個体群を将来にわたって持続的に維持することが求められています。さらに、ヒグマは知床の自然を象徴する存在であり、普遍的価値（OUV）の構成要素であるとともに、観光資源としても活用されてきました。同管理計画では、住民の生活や産業を守り、利用者の安全と良質な自然体験の場を確保しながら、ヒグマの生態及び個体群を維持することが保全管理の目標の一つとなっています。一方で、人への警戒心を失ったヒグマが人に近づいたり、市街地に侵入したりする危険な事例が増えており、管理上の負担も大きくなっています。

知床世界自然遺産地域では、環境省、林野庁、北海道、地元 3 町が協力して「知床半島ヒグマ管理計画」を策定しています。この計画は、知床財団も加わった「知床ヒグマ対策連絡会議」が運用し、科学委員会のヒグマワーキンググループが助言と評価を行っています。現在は、第 2 期計画の後半に入っています。これまでの様々な管理の取組や、2023 年の大量出沒時の捕獲による個体数や生息密度の低下にもかかわらず、斜里町幌別岩尾別地区や羅臼町市街地では、依然として危険事例が発生し続けています。また、事業者による不適切な廃棄物管理も確認されています。岩尾別川では、魚の遡上を妨げている河川工作物の改良が進められています。しかし、サケマスの上が増えると、それに伴ってヒグマの出沒も増加します。そのヒグマを見ようとする人が集まり、渋滞が発生するなど周辺施設への影響が懸念されています。このため、ウライが撤去されず、河川工作物改良の効果が十分に発揮されていません。このようなヒグマと人との不適切な関わりは、世界遺産の価値の維持や向上を阻害しています。

ヒグマによる人身被害のリスクは依然として高い状況にあります。そのため、個体数管理に加え、危険な問題行動を示す個体や、その兆候がある個体への対応（駆除を含む）など、適切な管理が必要です。あわせて、人間側の不適切な行動を確実に改善する取組を、早急に進める必要があります。これまでも知床では、ヒグマの追い払いや問題個体の駆除に加え、餌やりや接近、つきまといの防止に向けて、自然公園法や北海道生物多様性保全条例に基づく対応が行われてきました。また、知床五湖の高架木道の設置や利用調整地区制度の運用、アクセスコントロールの試行、野生生物への餌やり禁止キャンペーンなどを通じて、公園利用の仕組みづくりや普及啓発が進められてきました。さらに、地域ではヤブの刈り払い、電気柵の設置、学校教育など、様々な取組が実施されています。

知床世界自然遺産地域科学委員会は 2013 年にヒグマに関わる問題の重大性を鑑み、緊急声明「岩尾別川のカメラマンによるヒグマの人なれの危険性について」を発出しました。しかし、上記のように問題の収束が見通せない状況が続いています。

さらに、2025 年 8 月 14 日には羅臼岳において人身被害が発生しました。

私たちは、2026年3月に策定された「羅臼岳ヒグマ人身事故の再発防止策」を着実に実施するとともに、知床半島ヒグマ管理計画に基づくモニタリング調査で得られた科学的知見を活用し、以下の取組を緊急に進めることを、関係行政機関、事業者、地域住民および来訪者に対して改めて提言します。

1. 関係機関には、人間に起因する危険事例やヒグマの過度な人慣れを防ぐため、自然公園法等を実効的に運用することが求められます。また、危険性の高いヒグマの問題行動やその予兆を的確に把握するために、情報収集体制を強化すること、そして人に自ら接近したり、つきまとったりするなどの危険行動を示す個体を確実に排除できる体制を整備していただきたい。
2. 関係機関には、「羅臼岳ヒグマ人身事故の再発防止策」を着実に履行するとともに、登山口での情報提供の充実、登山届の提出の徹底、必要な装備や適切な行動に関する知識の確認と実行を促す指導を強化していただきたい。また、問題個体の発生状況等に応じて、登山道の閉鎖などの入山（入域）制限を適切に実施・推進していただきたい。
3. 事業者、地域住民および来訪者には、ヒグマを誘引し、住民生活圏への侵入や問題行動の助長につながるものを適切に管理していただきたい。また、ヒグマの出没や痕跡に関する情報の収集にも、積極的に協力していただきたい。
4. 観光事業者および来訪者には、ヒグマとの遭遇リスクがあること、また餌付けや接近、つきまといなどの行為が自然公園法等に違反することを十分に認識していただきたい。その上で、これらの行為がヒグマの人なれを助長し、地域社会に影響や危険を及ぼすことを自覚し、ルールを遵守して行動していただきたい。また、十分な情報収集と準備を行い、施設管理者の指示に従うとともに、危険性の高いヒグマの検知に向けた情報収集にも積極的に協力していただきたい。
5. 各メディア、観光関連事業者、アウトドア関連事業者および登山関連団体には、上記の取組を積極的に支援していただきたい。また、一般市民、来訪者および登山愛好者に対して、クマ類に関する正しい知識の普及と適切な行動を促す情報発信および啓発に取り組んでいただきたい。
6. 関係機関および地域関係者には、特に幌別地区以奥におけるアクセスコントロールや利用調整地区制度を活用した利用制限の検討を進めていただきたい。また、人の営みに起因する問題を根絶するための地域社会づくりについても、中長期的な視点で取り組んでいただきたい。

令和8年3月末日

知床世界自然遺産地域科学委員会 委員一同